

# 油断しないで「猫のフィラリア症」

咳、嘔吐、食欲減退……  
突然死もありえる

寄生虫病の「フィラリア症」とい  
えば、犬だけの病気と思っていま  
せんか。実は猫も感染します。  
感染経路は犬と同じです。蚊が  
猫の血を吸う時、フィラリアの幼  
虫が蚊の唾液腺から猫の表皮に  
出て、吸いあとから皮下に侵入。  
その後、猫の体内で成長し、やが  
て心臓に達します。

ただ、本来の宿主である犬と  
違って、猫の場合、フィラリアはう  
まく適応できず、幼虫から成虫に  
まで成長することは稀です。しか  
し、この幼虫が猫の呼吸器に悪影  
響をもたらす、「咳」「嘔吐」「食欲  
不振」といった症状を引き起こし  
ます。咳は、一見、喘息やアレル  
ギー性気管支炎などの症状に似  
ているため、見逃されてしま  
うケースもあります。フィラリア幼  
虫が成虫となり、猫の体内で死ぬ  
と、重篤な肺障害や突然死をもた  
らすこともあります。

月一回の投与で  
確実に予防していく

猫の場合、フィラリア症の診断  
がとても難しく、原因不明で突然  
死した猫を解剖してやっとフィラ  
リア感染に気づくということがあ  
ります。また、治療法が確立して  
いないため、猫のフィラリア症対策  
でなにより重要なのは寄生予防

予防方法は、犬と同じく、蚊の  
活動が活発になる時期に、毎月一  
回予防薬を投与することです。

地域の気温によって予防時期  
が異なりますので、かかりつけの  
獣医師の指示にしたがってください  
。子猫の予防は6週齢から開始  
できます。投与によってフィラリア  
幼虫が血管内に侵入するのを防  
ぎます。ノミや回虫といった寄生  
虫も同時に駆除できるものもあ  
るので、動物病院で相談してくだ  
さい。

室内飼育の猫であっても、蚊が  
部屋に入ってきて刺される可能  
性がありますので、定期的に予防  
しましょう。  
犬と比べて、健康な猫を動物病  
院に連れていくという人は多くあ  
りませんが、愛猫の健康のため  
にかかりつけ医を探して、定期的  
に病院を訪れることも検討して  
いきましょう。

## 猫のフィラリア症 チェックリスト

下記の項目に当てはまる場合には、  
感染の確認と予防を考えましょう。

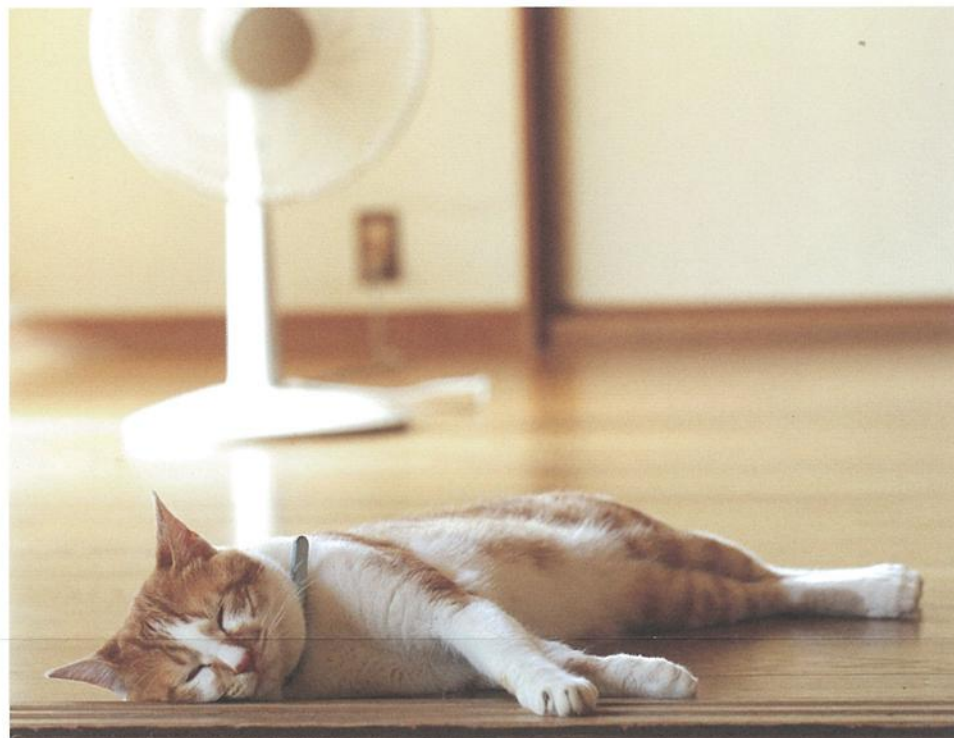
- 家の中で蚊を見たことがある
- 室内飼いだいが、外にも行く
- 近所に犬を飼育している家がある
- フィラリア症の予防をしていない

## 猫の予防医療 愛猫のためにできること

# ※ 10匹に1匹がかかる 猫の「感染症」

※フィラリア幼虫感染報告(出典:佐伯英治/Clinic Note)、ネコエイズ抗体調査(出典:相馬武久ら/J. Environ. Dis. Vol.21)

猫の10匹に1匹が感染しているといわれている「フィラリア」と「ネコエイズ」。猫たちにとっ  
て、とても身近でこわい病気でありながら、病態や治療法、予防法についてはあまり知ら  
れていません。正しい知識を身につけて、愛猫の健康を守っていきましょう。



## 基礎知識を身につけて「ネコエイズ」の感染拡大を防ぐ

一度感染すると  
完治はしない病気

猫免疫不全ウイルス感染症、  
通称「ネコエイズ」は、感染すると  
免疫力が低下し、いろいろな病気  
にかかりやすくなったり、病気が  
ら回復するのに時間を要したり  
します。一度感染すると完治する  
ことはなく、発症すればやがて死  
に至るといふ数ある猫の感染症  
の中でも最も危険な病気です。  
ネコエイズのウイルスは感染猫  
の血液や唾液に含まれており、  
感染猫との直接的な接触によっ  
てのみうつります。ケンカのかみ  
傷から唾液を介して感染する  
ケースがもっとも多いと考えら  
れます。母猫から子猫への感染も  
考えられますが、可能性は非常  
に低いと考えられています。なお、  
ネコエイズは、空気感染する事は  
ありません。また、人には感染し  
ません。

ネコエイズは感染し  
てから発症するまで  
に長い経過をたどり  
ます。まずは感染後数  
カ月は発熱やリンパ  
節の腫れなど風邪の  
ような症状が見られ  
ます。微熱があり、元  
気がない日が続くと  
きは要注意です。この  
時期を見逃すと、次第  
に症状がなくなってい  
くので、感染に気づか  
ないかもしれません。(血液検査  
で感染の有無が確認できるのは  
感染後2週間以上経過してから  
です。)

## ネコエイズ チェックリスト

下記の項目に当てはまる場合には、  
感染の確認と予防を考えましょう。

- 屋外で飼っている
- 室内飼いだいが、外にも行く
- 近所に野良猫が多い
- 多頭飼育の中に感染猫がいる
- 気性が荒くよく喧嘩する
- 脱走する可能性がある
- 雄猫(去勢をしていない)

急性期の症状が消えると見た  
目は普通の元気な猫と変わら  
ません。けれども体内ではウイル  
スがゆっくりと増殖しています。感  
染したものの症状のないまま寿  
命を迎える子もいます。病態が進  
行するとやがて免疫不全症候群  
を発症します。典型的な症状の一  
つが口内炎で、その他、下痢、上部  
気道炎、悪性腫瘍など、免疫力の  
低下が招くさまざまな症状を引  
き起こし、次第に痩せ衰えて死に  
至ります。

ワクチン接種で  
確実な予防を徹底

残念ながら、現在ではネコエイ  
ズウイルスに対する根本的な治  
療法はありません。治療は、症状  
を和らげたり、抑えたりする対症

日本以外のネコエイズ感染  
率は10%以上ともいわれていま  
すが、一番の予防法は感染猫と接  
触させないことです。まずは室内  
飼いを徹底しましょう。さらに、  
愛猫がネコエイズに感染してい  
かどうか一度確認することも大  
切です。もし感染していれば、前  
述のように発症を遅らせる配慮  
が必要となります。

また、ワクチンで予防が可能で  
す。外にでる子、ほかの猫と接触  
する機会がある子、多頭飼育で  
その中にネコエイズに感染して  
いる子がいる場合などはもちろん、  
室内飼いであっても、万が一に備  
えてワクチンを接種することも有  
効です。ワクチンについては、動物  
病院に相談しましょう。

定期的に病気を予防しましょう。